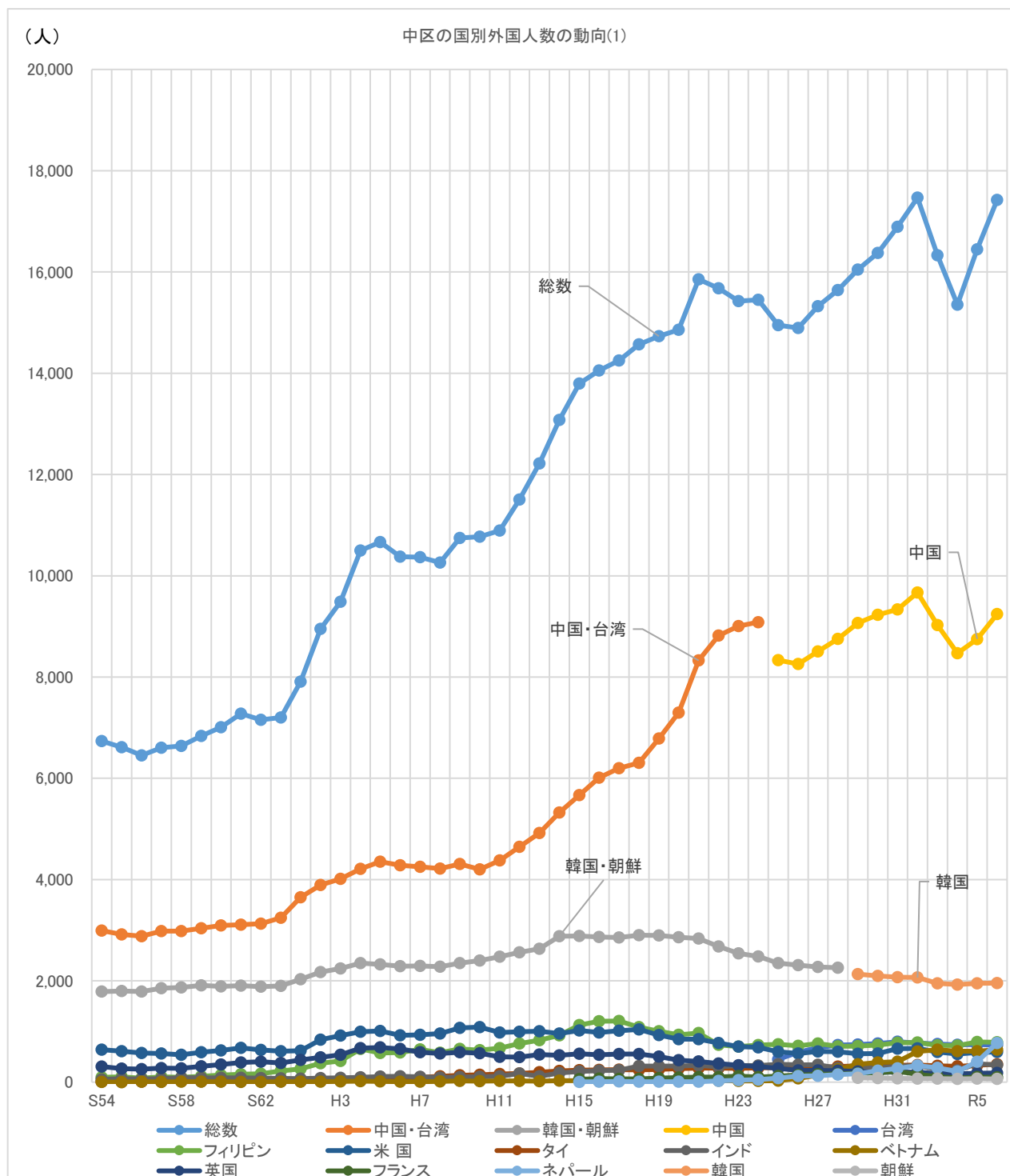


令和6年度 中区外国人数基礎調査 集計結果概要

■国・地域別外国人数の動向

中国と韓国が外国人の過半を占めている。中区は中国人の比率が約 52%と高いことが特徴である。外国人数の半数を占める中国はコロナ禍の影響を受け減少した。回復傾向にあるが減少前の状態に回復していない、韓国は緩やかな減少傾向にある。ネパール、ベトナムなどが急速に増加している。

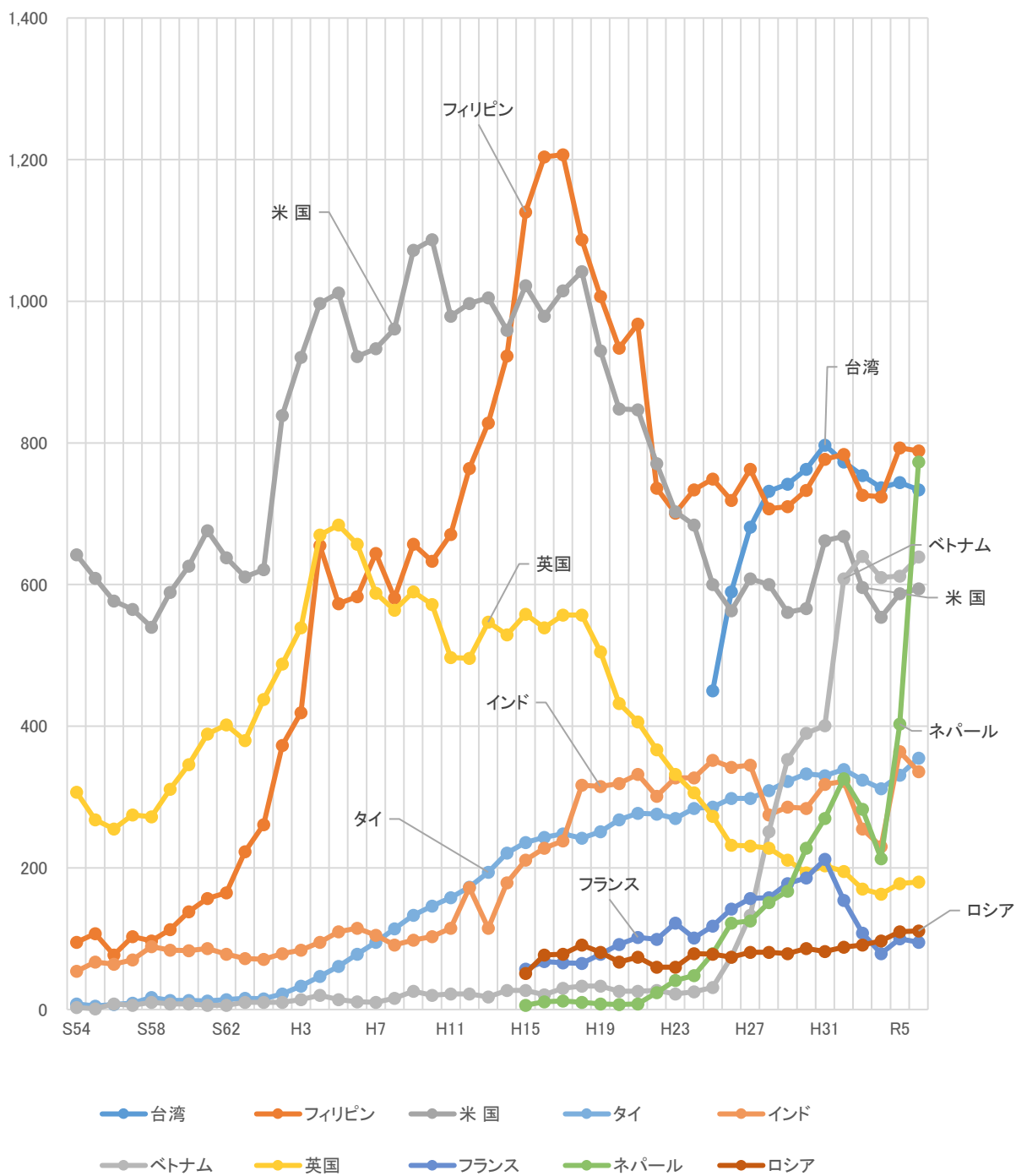


\* 各年区別月別世帯数男女別人口（日本人と外国人別）の集計結果（横浜市統計書）による。各年3月末時点  
 \* 昭和53年～平成23年の中国は中国と台湾の合計。平成24年以降は分けて集計されている。

(人)

中区の国別外国人数の動向(2)

\* 中国・台湾、韓国・朝鮮を除く



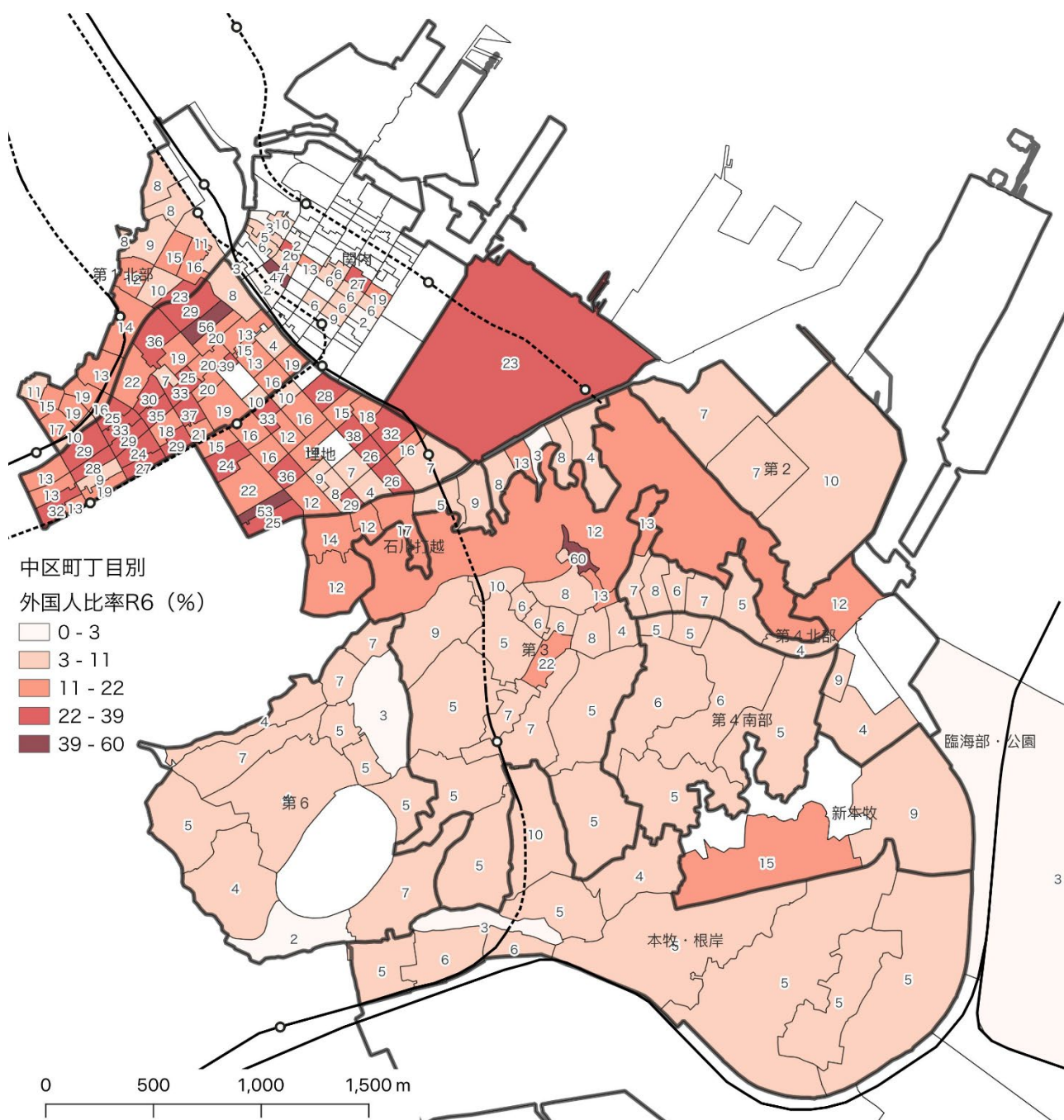
\* 各年区別月別世帯数男女別人口（日本人と外国人別）の集計結果（横浜市統計書）による。各年3月末時点

## ■エリア別外国人の分布

中区では区内の広い範囲に外国人が住んでいる。関内地区の北西部分など業務・商業施設が集中している区域にも分布している。また、山下町や山手、新本牧地区の東部にも多くの外国人が居住している。

また、町丁目別外国人の増減数を見ると、令和1～6年の期間では、第2地区の山下町や第3地区山手町などで減少した。その他の多くの地区では外国人が増加している。

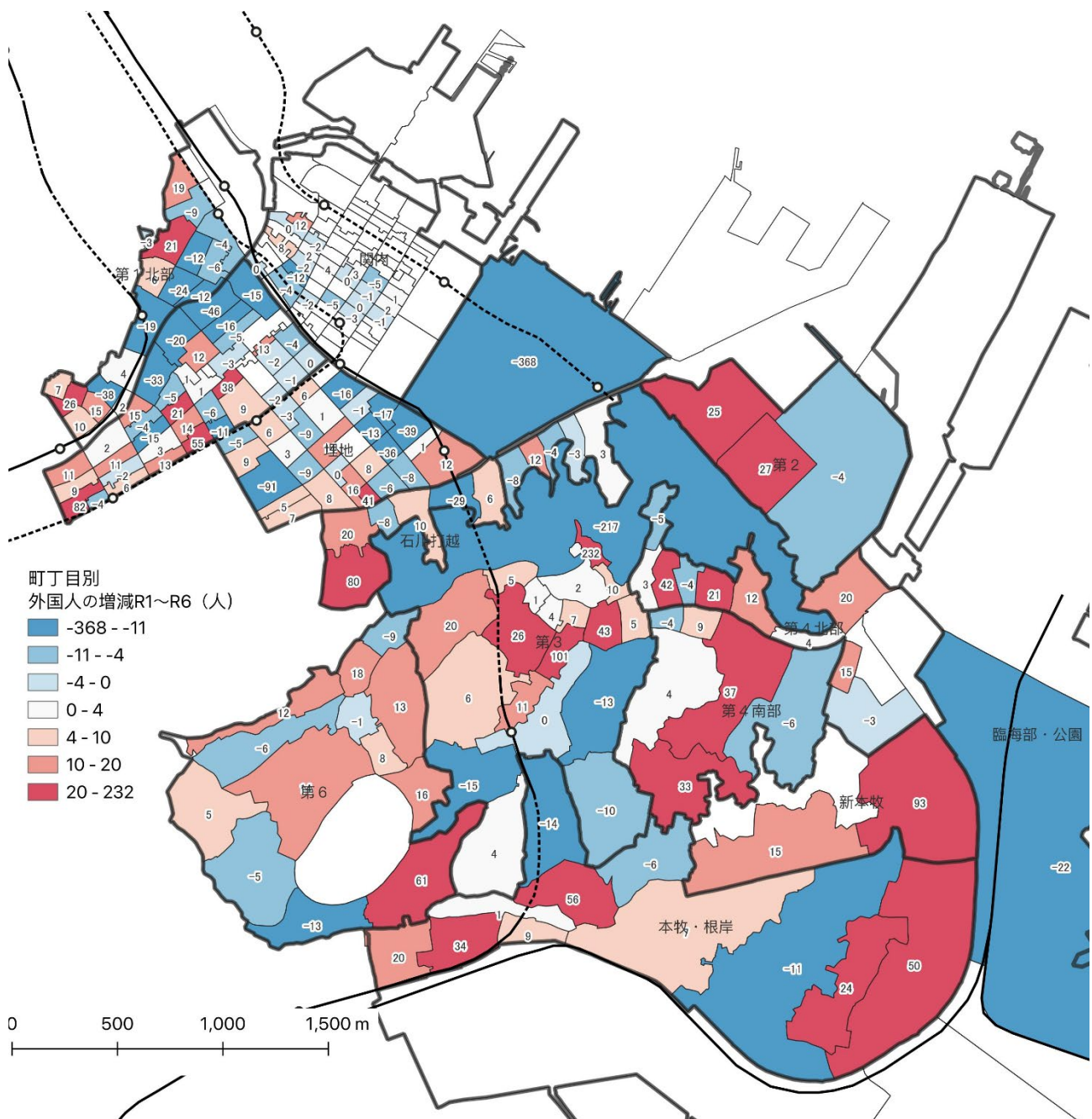
町丁目別外国人比率



\*住民基本台帳の独自集計結果による。令和6年5月時点。

\*外国人比率0に外国人のいない町丁目数73を含む。

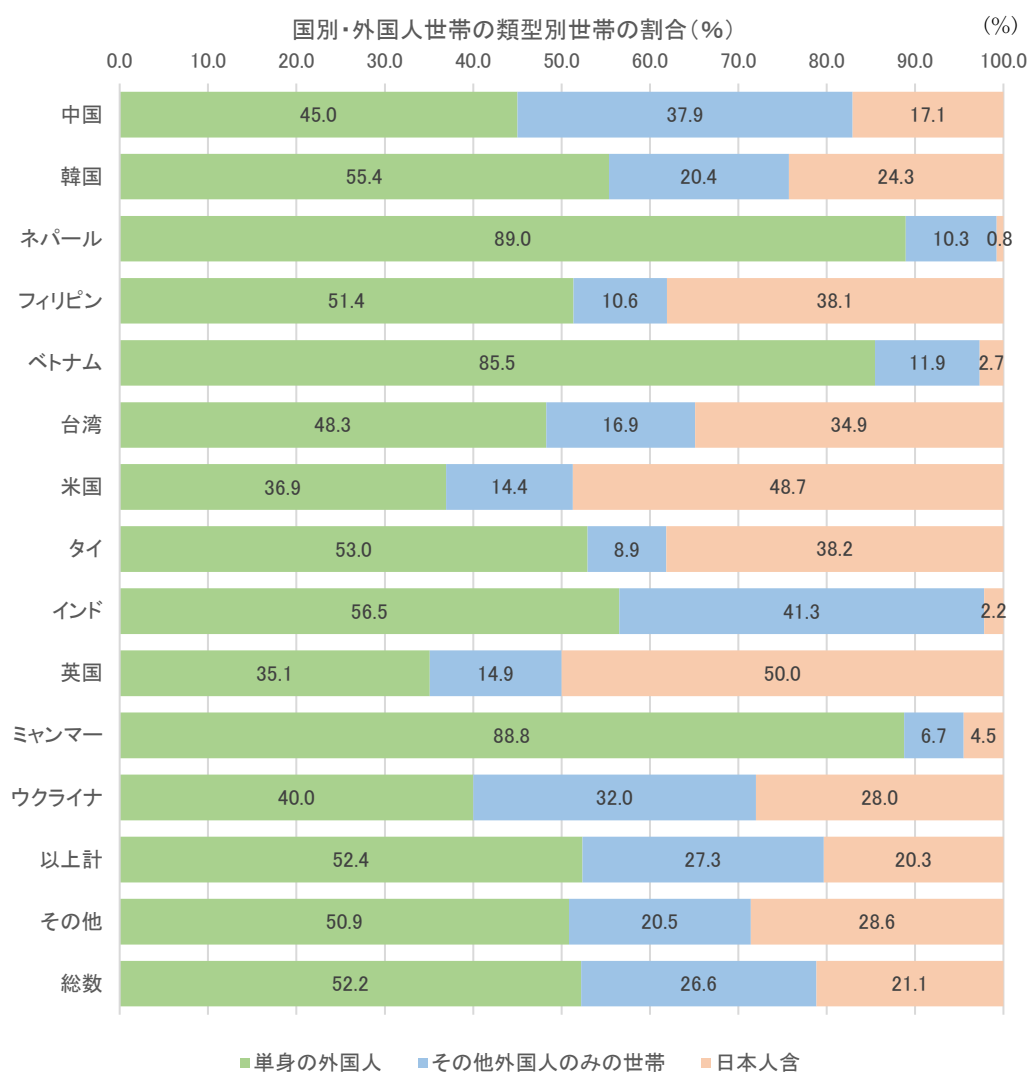
町丁目別外国人の増減数 R1～R6(人)



\*住民基本台帳の独自集計結果による。令和6年5月時点。

## ■国別・外国人世帯の類型別世帯の割合

単身の外国人の比率平均は52.2%である。国・地域別に差があり、比率が80%を超え高いのは、ネパール（89.0%）、ミャンマー（88.8%）、ベトナム（85.5%）である。単身比率が40%を下回るのは、米国（36.9%）、英国（35.1%）である。



\*住民基本台帳の独自集計結果による。

\*複数国籍の世帯は筆頭者の国籍で算出。

\*国・地域、世帯の規模等不明を除く。